


修了生インタビュー 石田あきらさん（2020 年度修了生）

 前回に引き続き、伊田副研究科長がインタビューをおこないました。

――本研究科を修了されたのはいつですか？

石田：2020 年度に修了いたしました。教育実践探究論文のテーマは「フォロワーシップ教育による学級づくりの実践とその課題」でした。この論文はさまざまな場で発表の機会をいただき、引用されることも増えました。

――ご著書について教えていただけますか？

石田：昨年 11 月に『歴史と対話』（日本機関紙出版センター）を出版しました。執筆のきっかけは、日本の一部の政治家やマスコミが周辺国を敵視するような言説に対して、強い危機感を抱いたことです。かつて戦争へと向かった時代と似た空気が広がりつつあることに憂慮し、「何とかしなければ」との思いで書きました。

――これまでの活動の中で特に印象的なことはありますか？

石田：初めて領事館でプレゼンテーションをさせていただいたことが印象に残っています。また、中国の先生方を前に、90 分間中国語で発表した経験も貴重でした。どちらも初めての経験で非常に緊張しましたが、終了後には新たな交流が生まれ、嬉しく感じました。

――現在はどのような活動をされていますか？

石田：現在、奨学金の申請中で、採用されれば中国の学校の先生方と共同研究を行う予定です。これまでにない新たな学びを得るとともに、微力ながら世界の教育に貢献できればと思っています。

――修了生や後輩たちへのメッセージをお願いします。

石田：人とのつながりを大切にし、自分からチャンスをつかみにいってください。人生は一度きりです。ぜひ、楽しみながら進んでください。

本研究科での学びを土台に、教育と研究を結ぶ実践を重ねてこられた石田先生の歩みは、私たちに深い示唆を与えてくれます。国際的な発信や著書を通じて広く社会に影響を与えるその姿勢は、本研究科で学ぶ者にとって大きな励みとなることでしょう。今後のさらなるご活躍が期待されます。